



大岩 常男 議員

南相馬市のまちづくり

問 南相馬市三区の駅通り、商店街のまちづくりについて伺う。

答 相双地域の中心的な機能を担う広域拠点としての原町区の市街地、鹿島区や小高区などの商業地の地域拠点として、既存の商業等の各種都市機能の集積を生かしながら、「行ってみたい」と思われる機能の集積を図り、地域の独自性を生かした魅力ある商業地の形成を推進するものと考えている。

問 夜間の到着電車にあわせてタクシーの待機について伺う。

答 交通結節点となる駅での公共交通機関の乗り継ぎ環境の整備は重要であると考えていることから、タクシー事業者を始め、交通事業者の運転手確保の支援を引き続き行い今年度中のJ・R常磐線全線



駅前通りの風景

再開に向けて、タクシー事業者と協議をする。

問 再開に向けて、タクシー事業者と協議をする。

答 ながらモデル地区を特定し推進していく。防災用品を市内全世帯に配布することについて伺う。

質問を終えて

防災用品は南相馬市民全世帯に準備の必要性を強く感じています。

問 野馬追い祭場地観覧席のあり方について伺う。

答 各行政区と相談し



田中 一正 議員

高齢者の生きがいと安全対策は

ている。

問 国民年金生活者は満額で年間80万円である。月額にすると6万6千600円位、生活費のほかに交通費の負担となると厳しい。さらなる負担軽減に向けての努力について伺う。

答 みなたく以外での地域公共交通を担う手法について、以前の小高区でのデマンドタクシーや全国の事例を総合的に検討している。

問 国が今推進をしているグリーンズローモビリティというゴルフカートを公共交通に利用したケースがある。助成制度もあるが本市として取組む考えは。

答 いわば数を始め、全国で複数の自治体が実証している。結果を調査し、検討して行く。

質問を終えて

本市の高齢化率は34パーセント。高齢者の自立と安全確保の為、早期の対策が必要。



高齢者に人気の移動手段（電動カート）

問 小中学校適正化のすめ方は

答 本市ドローンの利用は



平田 武 議員

広域機能の拡充に向けて

問 相馬地方の人口減少と、4自治体の発展に向けて、4点について提言するが、冒頭4管理者で協議を促し、

答 ①多目的広域会館3千人収容できる規模の建設について。

問 現況において、他自治体から要望は無いが、施設の活用における連携は大事な視点であり、情報の公有や意見交換の場をつくり取り込む。

答 ②高等教育については、県立高校の改革が示され、相馬地方においても必要があり、協議すべき。

問 生徒数の減少が進んで行く中で、高等教育の充実に向けて情報共有し、高校のあり方について、自治体間で幅広く意見交換をして行く。

③相馬地方として



改修まれたる栢木堰

質問を終えて

人口減少と広域連携、施設の協同活用が大切。学校や医療体制における統合も視野に。

問 スマート農業への対応について

答 ロボットテストフィールドを農業に活かせる

③栢木堰の改修について、令和3年度から



渡部 寛一 議員

市民のくらしと生業を取り戻せ

していきま。

問 小高区に69歳の方が戻ることを決意したのは、被災者支援策があったればこそでした。それも安心通報システムです。24時間の監視体制と緊急時に簡単に通報ができます。市からの通知で2020年度で終了し、その後は自己負担で言われて落胆をしています。市民生活、産業の様々な支援策が、東京オリンピックをもって全て終了になります。市民は以前のくらし・生業を取り戻せずに苦しんでいます。支援策の継続を国・県等に強く求めるべきです。

答 国は3月に復興方針を見直し、継続して取り組むとしています。市民環境を取り戻すまで、今後も国が責任を持つようさらに要望



いまだに災害復旧されない下耳谷・上鏡沢の水田

質問を終えて

民間借上げ住宅を3月に打ち切るなど、県も県民に寄り添っていない。県の姿勢変換も。

問 汚染土壌の再生利用は断固ダメ

②山林土取り場の量化的強化を

③空き家、空地を荒廃させない対策を